

G I Sを用いた、遠野市における文化的景観保全区域の設定

岩手大学 学生会員 ○佐々木 充 フェロー会員 安藤 昭
正会員 赤谷 隆一 正会員 南 正昭

1. はじめに

観光地の多くが抱える「開発による歴史や文化の破壊、環境悪化」といった問題は遠野市においても懸念されており、遠野物語を生んだ文化・風土を守り、次世代に継承させる「地域遺産の保存の手法の研究」が今後のまちづくりにおいても重要な視点となっている。

本研究では「時空間的都市把握モデル」⁵⁾を適用し、つまり遠野の都市空間を「生物的環境」「インフラ機能空間」「文化現象としての景観」「心理現象としての景観」の異なる視角に還元し、これらのそれぞれについてG I Sを用いて空間位置図を作成して、文化的景観保全区域の設定を行なっていく。

2. 研究概要

(1) 対象地域について

遠野市は岩手県の東南部に位置しており、県内を南北にまたがる北上山地の中にある盆地で、早池峰山・六角牛山・石上山の「遠野三山」を始めとする多くの山々に囲まれている。気候は寒冷で、冬には零下15℃を記録することもあり、盆地特有の寒暖の差が激しい地域でもある。

2005年10月には宮守村と合併し、新市の人口は31,401人(平成17年国勢調査)、面積は825.62km²となった。

(2) 時空間的都市把握モデルについて

先行研究「感覚統合理論による都市景観設計の体系化」において、都市を構成する視覚的な要素は、横軸に〈空間-景観〉、縦軸に〈コミュニティ-プライバシー〉を持つ座標『都市景観の構成』に示されている。

縦軸は都市を捉える主体を示しており、コミュニティ側は社会性・公共性を重要視する視角、プライバシー側は人目につかないことや個人を重要視する視角を表している。横軸は都市の視覚的環境を示

しており、空間側は空間構成に重みを置く科学的・客観的な視角、景観側は景観デザインに重みを置く現象的・主観的な視角であることを表している。

(図-1参照)

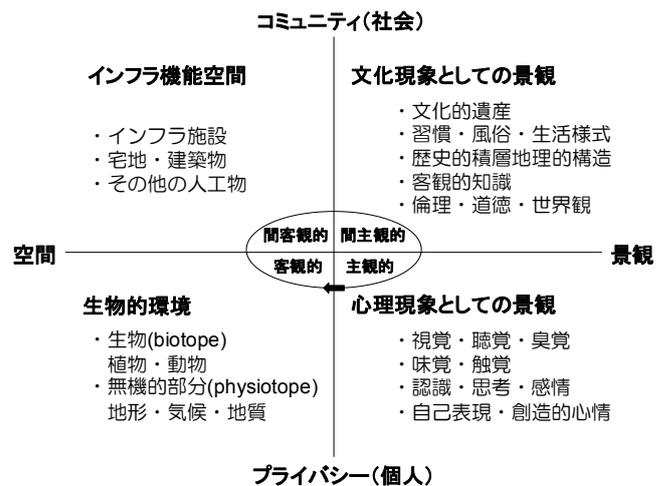


図-1 時空間的都市把握モデル

(3) 文化的景観について

文化的景観は「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」(文化財保護法第2条第1項第5号)と定義されている。遠野物語を生んだ遠野市には、これまで人々が営んできた生活や生業による歴史的な景観が存在している。遠野市固有の文化や歴史、風土の特色が顕在しているところを文化的景観保全区域とする。

ここで、遠野市全体の現況の景観を明らかにするには4つの象限が必要不可欠となってくるが、本研究では「文化的景観保全区域の設定」を目的としており、生物多様性の世界が広がる遠野市には「文化的自然」が数多く存在することから、文化的景観を考える際は「生物的環境」と「文化現象としての景観」の2つの象限に注目することとした。

3. 研究方法

はじめに、時空間的都市把握モデルをベースとして、遠野市において「文化的景観」に影響していると考えられる主題を決定する。そして、それらをGIS上に「ポイント・ライン・ポリゴン」の3つのデータとして図示していき、各主題の近接性をラスタ解析して、解析結果を演算することにより、文化的景観保存区域の選定を行なうものとする。

ラスタ解析では、単位面積ごとの量または大きさの分布を求めた。ポイントデータに関しては全域に対する相対的な密度を、ラインデータ、ポリゴンデータについては各要素のセルからの直線距離をSpatial Analystで求めた。

遠野物語に関する要素は、2000年に行なわれた「遠野物語を活用したまちづくりに関する意識調査」の「遠野物語に関連する場所のイメージ調査」⁴⁾で再生された40要素とした。

文化現象としての景観に関する要素は、2003年に行なわれた「風土イメージ調査」の「言語記述法によるイメージ再生調査」⁶⁾で再生された、再生率が6.25%以上の22要素とした。

生物的環境に関する要素については、遠野市における地形的要素を5主題にまとめた。

これらの要素及び主題をまとめたものを表-1に示す。

表-1 GISのラスタ演算に用いた要素及び主題

遠野物語に関する要素			文化現象としての景観に関する要素			生物的環境に関する要素		
1	早池峰山	23	常磐寺	1	福泉寺	1	山	
2	六角牛山	24	北上家	2	早池峰山	2	峠	
3	石上山	25	出羽神社	3	ふるさと村	3	滝	
4	薬師岳	26	母也明神	4	水光園	4	高原・牧場	
5	白見山	27	光明寺	5	カッパ淵	5	河川	
6	愛宕山	28	駒形神社	6	六角牛山			
7	権現山	29	続石	7	伝承園			
8	ニッ岩山	30	遠野ふるさと村	8	五百羅漢			
9	天ヶ森	31	常福院	9	風の丘			
10	笛吹峠	32	村兵衛敷	10	荒川高原			
11	仙人峠	33	愛宕神社	11	千葉家曲がり屋			
12	界末峠	34	卵子酉様	12	早池峰神社			
13	貞任高原	35	池端家	13	猿ヶ石川			
14	デンデラ野	36	カッパ淵	14	物見山			
15	東禅寺跡	37	伝承園	15	石上山			
16	長者屋敷跡	38	松崎光興寺登戸	16	鍋倉城跡			
17	八幡神社	39	姥石と牛石	17	八幡宮			
18	佐々木喜美の家	40	土淵町内琴畑	18	南部神社			
19	荒川の金勢社	41	猿ヶ石川	19	高清水高原			
20	程洞のコンセイサマ			20	早瀬川			
21	山崎のコンセイサマ			21	貞任高原			
22	和野のコンセイサマ			22	昔話村			

4. 結果

遠野物語に関する要素、文化現象としての景観に関する要素、生物的環境に関する要素について解析・演算を実施した。その結果を図-2に示す。

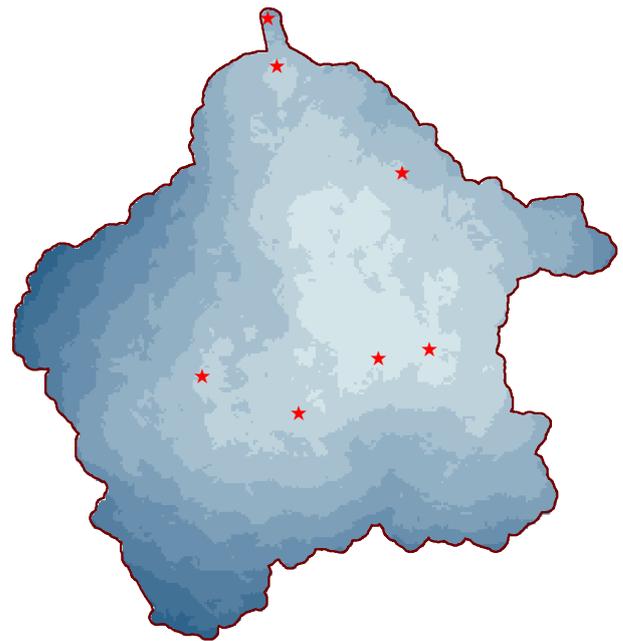


図-2 文化的景観評価領域図

図-2において、明度が高い領域が文化的景観としての評価が高い領域となり、遠野市の文化的景観保全区域の基礎となる領域を選定することができた。保全区域の設定には、現地においてこの領域を確認検討する必要がある。なお、本領域は遠野市が実施した調査⁷⁾による文化的景観候補地(☆)と重なっていることが明らかとなった。

参考文献

- 1) 柳田國男：遠野物語、大和書房
- 2) 安藤昭、赤谷隆一：都市アメニティ計画論、土木学会全国大会、1984
- 3) 安藤昭：第4回土木工学ハンドブックI、p.p.841~843、1989.11
- 4) 松野和彦：遠野物語とその地理的分布に関する意識について、土木学会東北支部概要集、2000
- 5) 安藤昭、赤谷隆一：感覚統合理論による都市景観設計の体系化、土木学会論文集、No. 633/IV-48、63-75、2000.7
- 6) 小笠原崇：遠野市をモデルとしたエコミュージアム計画の展開手法に関する研究、岩手大学大学院工学研究科、修士論文、2005
- 7) NPO都市デザイン総合研究センター：遠野物語の景観保存調査事業、事業報告書、2006.3